

控室

「クニマス未来館」 もつと早くに…

29年第1回定例会議案第1号に「仙北市田沢湖クニマス未来館条例」が上程された。

「クニマス」に「ロマン」を感じる人はいるだろう。しかし、ピンとこない人も多いだろうと思う。

「時期尚早である」「未来館を建ててもランニングコスト(約1千五百万円)がペイしない。」

県が各市町村と協働による未来づくりをする為、事業費の半額(2億円)を補助として支出するもの。市では「クニマス未来館」建設の関係予算に使用した。

担当委員会の総務文教委員会は条例案を否と決した。

本会議採決は委員会の結果を尊重することが議会の慣例であったから、このままいけば本会議でも条例案は否決される。

委員会で否と決した主な理由は次の通りである。

★臨時職員を採用し秋田県と山梨県で2ヶ月間の講習の後、クニマス未来館でクニマスの飼育に当たるとの事だが、生態がわからず難しいと言われるクニマスの飼育には専門家を採用すべきである。

★国内外の方々から来ていただく為、条例の最初に仙北市でなく秋田とすべ

きである。

クニマス未来館は7月1日開業に向け建物は完成間近となっているが、条例案が否決されると一般会計に提案されている運営予算は凍結になる可能性が高い。

本会議採決前に「議事進行」をかけた二度の休憩をはさみ、この取り扱いを協議することにした。

議員全員で臨み各々の意見、主張を出し合い「市議会」としての方針を協議した。

「今ここにきて反対するのでなくもつと早くに意思表示すべきである」

「何でも賛成する雰囲気は反省するべきだ」「これまでさまざまな団体の関係がありここまで来た。今ここで予算凍結は失礼ではないか」「クニマスの飼育については、内水面試験場を退職した専門家を採用しているのになぜ説明しなかったのか」等々。結果、本会議では逆転し可決となった。

「議事進行」中の各位の発言を集約すれば、あたかも「今」でなく、「もつと早く」に否決すべきであったかのごとくであったが、予算は凍結を免れ、観光面で市民に大きな希望となりました。

（八柳 良太郎記）

平成29年3月議会

人事案件(敬称略)

田沢財産区管理委員 同意

千葉 栄幸 (62歳) 寺下

藤原 修 (68歳) 大山

羽根川 覺 (72歳) 先達

千葉 恒昭 (72歳) 打野

人権擁護委員 推薦

茂木 一代 (55歳)

角館町小勝田中川原1-1-1番地30

◎記事訂正のお詫び

平成29年2月15日発行の議会だよりNo.45号の人事欄人権擁護委員の名字に誤りがありました。お詫びを申し上げ訂正させていただきます。

人権擁護委員

伊藤和子(誤)↓伊東和子(正)

編集後記

今議会では、常任委員会を含め条例案の修正や否決、予算案の修正が相次ぎ提出された。

高校入学準備金貸付条例の一部を改正する議案では、現在高校生学準備金借用の契約者は親で返済率が17%と低率である。他の市町村では契約者を本人、親を保証人とし卒業後の返還について自覚を持っていただいているため返済率ももつと高くなっている。本市も他市町村と同様に改正をとの提案であったが、本人の使用する準備金といながらも、契約時まだ若いので将来を考えるといかがなものか。徴収率だけだとすれば連帯保証人等で改善できるとして否決された。また、予算の修正案については、定例議会前の協議会において不備事項を指摘したが、失念し是正しないまま提出したため、不備事項に係わる部分の平成29年度予算を削減する修正案が提出され、賛成多数で可決された。

一事が万事、職務に対する緊張感の欠如や責任感の不備が招いた議案の否決や修正であり猛省すべきである。

(門脇 民夫記)